

「人口減少社会の中で大分が生き残る方法」⑤

結論として、東京一極集中
はどうにも止められないし、

地方でも大都市一極集中が

進み、都市部以外ではますます

人口も経済力も減少に歯

止めがかからない。この流れ

は産業構造の変化が生み出

しているもので、世界共通の

必然的な流れで、東京は比類

なき資質を持つ大都市適地

だ。新たな産業配置と人口配

置のバランスが取れるまで、

この流れは止まらない。この

流れに逆らおうとしても、殆

ど徒労に終わるだろう。それ

よりもこの流れの先にどん

な近未来が来るのかを予想

して、未来に適合する努力を

すべきなのだ。そして大分の

場合、そのキーワードは観光

立県なのだ。大分に来県する

外国人観光客は現在の5倍

から10倍になるポテンシャル

を持っていると私は感じてい

る。間違いない戦略と、時期

を逸しない行動があれば、必

ず達成出来ると思う。

大分県は既に、製造業集積

(クラスター)戦略が二代40

年間にわたる経済産業省出

身知事によって、大きな実を

結んでいる。今後この戦略

は力強く続いて行く。だから

こそ次なる大分県の成長戦

略が観光立県戦略であるべ

きなのだ。そしてそのター

ゲットは外国人でなければな

らない。そして外国人の事は

外国人に聞いた方がいい。海

外の観光マーケティング会社

に大分県の観光戦略を描か

せるべきだ。そしてその会社

は、対象国別、男女別、収入階

層別、季節別、関心分野別に

カテゴライズされた細やかな

観光戦略を科学的に実証的

に示し、目標値も出さなければ

ならない。それを総合して、

県内の観光資源投資戦略へ

と昇華させ、着実にPDCA

を回して行けば、大分県は比

類なき観光地へと変貌するに
違いない。

観光客は短期移民でもあ

り、留学生と相まって、県内

人口と経済を押し上げる効

果が高い。子育て支援の充実

も進んでいる。人口減少社会

にあつて、人口が減少しない

大分県に挑戦する事は出来

る。しかし、その人口ギャップ

を埋めるのは外国人である

という事を、しっかり認識し

覚悟する必要がある。移民国

家であるアメリカ合衆国の歴

史や欧州で進んできた移民

の歴史において、度々発生し

ている移民排斥運動を俯瞰

してみると、どうも人々は今

現在の外国人の数の多さに

反発するのではなく、外国人

が増えるペースが早すぎると

反発や排斥が発生するとい

うことが見えてくる。欧州の

国々でも、もう移民比率は

20%を超えてきている。かな

り高い比率だが、シリア難民
の問題が起こるまで、大きな
問題になっていないし、シリア

難民によって、欧州各国の移

民比率が極端に高まった訳で

はない。社会が受容出来る

ペースが維持されれば、問題

なく外国人は社会に溶け込

んでいく。大分県は県民一人

当りの外国人数が日本一だっ

たが、外国人と県民の関係は

すこぶる良好だ。逆に大分県

ほど外国人比率が高くなる

ても反発の強い地域もある。

大事なのは、ペースなのだ。こ

れを心得て外国人を受け入

れてゆけば、日本は少子高

齢・人口減少の暗い未来像を

変えられるはずだ。

Facebookでも活動報告を行っています。(Facebookアドレス) <https://www.facebook.com/anamiyoichi>

皆様のご意見をお聞かせください!お待ちしております。

あ な み よ う い ち

衆議院議員

穴見陽一

後援会
事務所



〒870-1133 大分市大字宮崎867-18 TEL.097-567-1319 FAX.097-567-2010

<http://www.anamin.net> E-mail:info@anamin.net